

令和3年2月3日

箕輪町議会議長 中澤清明 様

箕輪町議会活動活性化委員会  
委員長 入杉 百合子

### 議員のなり手不足と議員定数について（報告）

箕輪町議会活動活性化委員会は、令和元年度から令和2年度において、議員のなり手不足と議員定数について、アンケート調査や各種団体との意見交換を行い、また、同様の課題に取り組む町村を視察するなどして、課題を解決するため検討いたしました。

当委員会における検討結果について、次のとおり報告します。

#### 記

##### 1 取り組みの経緯

議会活動活性化委員会は、平成31年4月に行われた町議会議員選挙において、32年ぶりに「無投票」となったことを重く受け止め、直後から「議員のなり手不足」と「議員定数」をテーマとして研究を重ねてきた。令和元年には同様の課題に取り組む2つの町村の視察をし、それぞれの議会を調査して、資料の収集などを行い、2年間で17回の委員会を持ち、精査と検討を重ねた。

令和2年には「無投票」という状況を町民がどのように受け止めているのか実態を知るため「町民アンケート」の実施をした（令和2年7月）。

アンケートは2,000人に依頼して、結果883人から回答を得た。回答率は44.2%であった。その後、区長会・各種団体代表の方々と意見交換を行って、年代や職業において幅広い範囲の意見を聞くことができた。

##### 2 調査結果

アンケートと意見交換会の結果をまとめると、概ね次のようになる。

「議会が何をやっているかが見えない」という意見が圧倒的に多い反面、議会への関心の低さも際立っている。町民の多くが議会の情報を「議会だより」や地元新聞から得ているが、ホームページの利用はほとんど無い。議会の傍聴は、8割の町民が経験が無いという。また、仕事との両立については「兼業」を町民の6割が良いとしているが、特に若い世代は「専業でやるべき」という意見が高齢者を上回っている。定数については「減」を求める声もあったが、現状維持が一番多かった。

### 3 なり手不足

2年間の取り組みを経て、議会として取り組むこと、町民と共に取り組むことを、次のようにまとめた。

#### ①議会として取り組む事項

議会が町民に見えず、活動や役割が伝わらず理解を得られていない。議会を周知してもらうためには、ホームページの使い勝手をよりよくし、議会広報の更なる充実を図り、より魅力ある広報誌を作る必要がある。また、議会傍聴者を増やすための努力を議員自身がそれぞれするべきと思う。

更には、大きい小さいに拘ることなく議会と町民の意見の交換ができる場をつくり、きめ細かく地域との接点を持って、町政の課題を住民と一緒にになって取り組むことが、議会の役割や活動を理解してもらい、政治への関心を高めることに繋がると思われる。

#### ②町民と共に取り組む事項

議員報酬と兼業が大きな課題である。若年層への報酬引き上げについては、町民から一定の理解を得られるとしても、制度設計に時間を要する。「なり手不足」は構造的課題であり、小手先での解決は難しいため、兼業についても休職・復職制度の整備といった準備が必要である。どちらの課題も検討を次年度に送りながら、研究テーマとして継続する必要がある。

「なり手不足」は議会のみならず、地域役員の「なり手不足」との共通の課題でもあることが解った。今後は、地域住民との繋がりの中で、どちらも「他人事」ではなく、「我が事」として感じてもらうことが必要である。

「なり手」となった候補者には、地域や仲間、グループなどが母体となって擁立のための支援や努力をすることが重要である。特に、若い人や女性が「なり手」として手を挙げやすくするためには、報酬や兼業、子育てのための手当と環境の整備等についての検討を進めるべきである。

### 4 定数について

「無投票だから」ということから議員定数削減の声がアンケートや委員会のなかでも出されたが、他の市町村でも「無投票」が続いた後、定数削減を行っても状況は変わっていない。議会は重要な議案の審議や議決、また行政の監視や町民の意見を元にして政策立案に繋げるなどの機能を発揮できるような知識や知見が求められている。

町の議会は委員会を中心とした運営であり、2つの常任委員会によって議案の審議や討議が行われる。活発で自由な発言や意見交換ができる人数とすれば、1委員会7～8人が望ましいとされていることと、町民からも現状維持の声が多かったので、現段階では15人を維持すべきである。

### 5 まとめ

「定数」、「なり手不足」は一朝一夕に解決できるものではないため、これからも町民の皆さんの理解を得ながら、常に時代の変化と共に見直して行くべきである。

今回、住民の皆さまから議会のあり様について多くのご意見をいただいた。

これからも議会の活性化を継続し、議員一人ひとりが町民の皆さんの声をくみ取りながら、町民全体の福祉向上と活力ある箕輪町の発展に繋げるよう努力すべきである。

(参考)

## I 委員会構成

委員長 入杉百合子

副委員長 青木俊夫

委員 伊藤 隆、岡田建二郎、荻原省三、寺平秀行、小出嶋文雄

## II 検討経過

- 1) 参考資料の収集、他自治体との比較・調査・検討
- 2) 議会アンケート調査の実施
- 3) 研修会、学習会の参加
- 4) 有識者の講義聴講、参考文献の収集  
地方自治の専門家、大学教授
- 5) 各種団体との意見交換会、懇談会の開催
- 6) 委員間の意見交換と集約